



みんながつながり 夢を育てる学校に

国立二小だより

平成30年11月1日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

ふれあい月間 ~優しさや思いやりがあふれる学校をめざして~

校長 小林 理人

10月は、運動会を始め、様々な学習や生活を通して子供たちの努力が「結実」し、一人一人が大きく成長しました。東京都は6月、11月、2月を『ふれあい月間』とし、各学校はいじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成を目指した取組を行います。本校でも「共感」という言葉を意識し、仲間のことを考えて行動したり、みんなで気持ちよく生活できるように工夫したりします。また、アンケート調査や個別の面接などを行い、いじめや不登校につながるサインを見逃さない指導も併せて行います。

今年度は、卒業生が在校生に託した「明るいまいさつ あたたかい言葉」を合言葉にし、**優しさや思いやりがあふれる学校**になるように年間を通して様々な取組を行っています。飼育栽培委員会と低学年の子供たちを中心に進めている動物飼育の活動もその一つです。

小学校動物飼育推進校として

本校は、これまで飼育・栽培委員会を中心にうさぎを飼育する活動を行ってきました。しかし、うさぎの適切な扱い方、飼育環境づくりや病気の予防など、子供たちの力では解決できない課題がありました。そこで、これらの課題を解決し、子供たちの活動をさらに充実させるために、平成30、31年度の2年間、東京都の「小学校動物飼育推進校」としての活動を進めることにしました。

推進校は、年間を通して専門的な知識をもった獣医師等と連携して様々な取組を行います。そして、動物とうまくかかわるための環境を整備したり、適切な飼育方法を学んだりすることで子供たちによる継続的な動物飼育の活動が円滑に実施できるようにします。また、高学年による主体的な飼育活動につながるよう、低学年では生活科の授業としてうさぎとのかかわりを中心とした体験活動を行います。

生命を尊ぶ心、動物愛護の心を培う活動(1.2年生生活科の学習)

1・2年生の生活科では、動植物とのかかわりを通して、生命の大切さや成長に気付いたり、生き物への親しみをもち、大切にしようとする態度を育てたりする学習を行います。そこで、今年度は、うさぎとのかかわりを中心とした体験活動を獣医さんからの指導・支援を受けながら行っています。

1年生は、うさぎの抱き方を教えてもらったり、心臓の音を聴診器で聞いたりする体験をしました。そして、2年生は、獣医さんの仕事のことや命の大切さなど、具体的なお話を伺うことができました。

1・2年生は、獣医さんからのお話や具体的な体験を通して、うさぎなどの生き物に対する関心が高まり、自分たちが主体的に飼育活動に関わりたいという気持ちが強くなったようです。

動物の衛生管理を学ぶ活動(飼育・栽培委員会の活動)

飼育栽培委員会の子供たちは、委員会活動で学校担当獣医師から直接指導を受けながらうさぎの飼育活動を進めています。適切なえさや水の与え方、糞や尿の処理の仕方、うさぎの健康状態の観察の仕方など、衛生管理について指導・助言を受けることで、児童がよりよい飼育活動を心がけるようになり、うさぎの様子を詳しく観察できるようになりました。

「うさぎにとって清潔な環境が大切だということや、糞の量や状態でうさぎの健康状態が分かるということを教えてもらったので、みんながうさぎ小屋の掃除を一生懸命するようになりました。」これは飼育栽培委員会の委員長感想です。今まで知らなかったことを専門家の方に教えてもらうことで飼育活動に対する主体性が育っています。